

金堂

優美な傾斜を描く屋根が魅力的な金堂だが、この金堂の建物は、もともとは京都の中心部の京都御所の中にあったものであり、天皇の謁見室として、また国家的な行事の会場として使用されていた。金堂を含むいくつかの建物が京都御所の中にあったものだが、1600年代に御所より仁和寺に下賜されたものである。

皇室と仁和寺の深い結びつきは1000年以上に及ぶもので、御所から移築された金堂は、祈祷の場所として使われているが、千年以上もの歴史を持つ御所建築の歴史を伝える重要な建物としての評価が高く、1953年に国宝に指定されている。金堂の堂内には様々な仏像が並ぶが、その中心には阿弥陀如来の像が本尊として祀られており、穏やかな、金色の輝きをまとう空間を従えている。その背後には西方浄土の壁画が広がり、極楽のイメージを信徒に伝えている。

東西南北4つの方角にはそれぞれ浄土があり、そのそれぞれに4つの方位を司る仏陀がいるとされている。阿弥陀如来はそのうちの西方極楽浄土を司っている仏陀である。

仁和寺は「古都京都の文化財」としてユネスコの世界遺産に指定されている17の史跡のうちのひとつである。